

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野本町小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> さいたま市学習状況調査において国語の「言葉の使い方や特徴」や算数の「数と計算」などの基礎的な内容について、やや課題が見られた。 <指導上の課題> 令和4年度までの算数科における読解力向上の研修成果や令和5年度からの国語科における読解力向上の研修成果を協同校で共有しながら、国語力をより高める指導や基礎的な計算力・数式的思考を身に付けさせる指導につなげていく必要がある。	⇒ ・研修成果である「本町小算数科スタンダード」「本町小国語スタンダード」を活用し、全校共通理解のもと学習指導を進めていく【毎月実施】 ・読解を増やす取組として、デジタルツール(Teams)の課題設定機能を活用したNIE活動や「コトバ」等)を活用する。【月2回程度の実施】 ・ICTの活用等によって児童一人ひとりの学習履歴を把握し、適切な指導ができるよう、授業改善を進めていく。【毎月実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> さいたま市学習状況調査において国語の「書くこと」の内容について、やや課題が見られた。 <指導上の課題> 本校の研究課題である国語力の向上をさらに推進することで、「書くこと」の育成を図る指導を行うしていく必要がある。カリキュラムマネジメントを行い、教科横断的に書くこととより算数の数に結びつけたり、児童が主体的に取り組める手立てを講じたりしながら、さらに授業改善を進めていく必要がある。	⇒ ・授業改善のために各学年のカリキュラムマネジメント実施状況の確認を行う。【月1回の実施】 ・読解力の向上を目指した取組としてTeamsの課題設定機能を活用しながらNIEの取組を行う。【月2回程度の実施】 ・初見の文章の読解力向上を図るため、「読解ワーク」を使った取組を行う。【月2回程度の実施】 ・文学的な文章や説明的な文章を教材とした研究授業の実践と共有を行う。【年2回(1月、12月)実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	結果提供(2月)
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語・算数・理科のすべての教科について、すべての項目で全国の平均正答率より上回る結果となった。特に国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」については正答率が8割以上となり、昨年度の本校の結果と比較しても高い結果となった。一方で「情報の扱いに関する事項」については正答率が7割を下回り、昨年度の本校の結果と比較しても、やや低い結果となった。昨年度のさいたま市学習状況調査では「情報の扱いに関する事項」の取り扱いがないため、学校全体の傾向として捉えることはできないが、第6学年の傾向として図や情報と語句の関連付けなどにやや課題があると考えられる。
思考・判断・表現	算数・理科については、全国の平均正答率と比較してすべての項目で上回る結果となった。国語も「書くこと」「読むこと」の項目では全国の平均正答率を上回ったが、「話すこと・聞くこと」の項目のみ全国の平均正答率を下回る結果となった。正答率としても7割を下回り、昨年度の本校の結果と比較してやや低い結果となった。調査結果から、目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することや、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることなどに課題があると考えられるが、昨年度のさいたま市学習状況調査では「話すこと・聞くこと」よりも「書くこと」に課題が見られるため、学校全体の傾向というよりも学年としての傾向と捉えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・「本町小算数科スタンダード」については、全校的に浸透しつつあり、日々の授業において共通理解のもと学習指導を進めることができているが、「本町小国語スタンダード」の内容については現在も研究中のため、活用できる範囲での実施となった。 ・朝学習「チャレンジタイム」の時間に、デジタルツールを活用した語彙を増やす活動を行うことができた。 ・ICTの活用等による児童一人ひとりの学習履歴を把握した授業改善については、学年や教科によって差が見られた。学年や教科、児童の実態に合わせながら積極的に実施していく必要がある。	変更なし
思考・判断・表現	A	・毎月の授業時数を報告する際に、各学年のカリキュラムマネジメント実施状況の確認を行った。また、小・中合同研修会において近隣4校の小・中学校でカリマネデザインマップの修正を行った。 ・朝学習「チャレンジタイム」の時間に、Teamsの課題設定機能を活用しながら、読解力の向上を目指したNIEの取組を行うことができた。また、読解力向上をねらったワークシートを使って初見の文章の読解力向上を図る取組を行うことができた。 ・7月に第4学年において読解力向上をねらった授業研究会を実施し、成果や課題について全校で共有することができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野本町小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	「言葉の使い方や特徴」や計算などの基礎的な内容について、やや課題が見られたため、ICTの活用等による児童一人ひとりの学習履歴の把握を推進しながら、適切な指導計画を立てていく。また、今後は今年度作成した「本町小国語スタンダード」や令和4年度までの研究成果である「本町小算数スタンダード」をもとに授業を実践し、国語力をより高める指導や基礎的な計算力・数学的思考を身に付けさせる指導を行っていく。
思考・判断・表現	国語では、「書くこと」の内容について、やや課題が見られたため、本校の研究課題である国語力の向上をさらに推進することで、「書くこと」の育成を図っていく。また、今後はさらにカリキュラムマネジメントを行い、教科横断的に学ぶことでより質の高い学びにつなげたり、児童が主体的に取り組める手立てを講じたりしながら、さらに授業改善を進めていく。

	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> さいたま市学習状況調査の各学年の結果より、基礎基本の定着は概ねできていたが、学年によっては定着に差が見られた。 <指導上の課題> 研修成果を共有したり、ICTを活用したりして、個別最適な学びを推進していく必要がある。	⇒ 「コトバト」等の児童の意欲を高めながら言葉集めができるデジタルツールを活用し、語彙を増やす取り組みを行う。【週1回の実施】 「本町小算数スタンダード」に加え「本町小国語スタンダード」を作成し、全校共通理解のもと学習指導を進めていく【毎回実施】 ICTの活用等によって児童一人ひとりの学習履歴を把握し、適切な指導ができるよう、授業改善を進めていく。【毎回実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> さいたま市学習状況調査の各学年の結果より、長文の読解や複数資料から問題を解く力に差が見られた。 <指導上の課題> 思考ツールをより汎用性の高いものにするなど、学校課題研修の成果を生かしていく場を増やし、さらに研究を深める必要がある。	⇒ 昨年度までの研究成果として作成した思考ツールを活用し、児童の実態に合わせながら取り入れることで、比較、分類、関連付けをしながら読み取ることができるようになる。【対応した授業ごとに実施】 NIEを取り入れ、新聞やワークシートを活用しながら、資料から必要なことを読み取る力を育てる。【月1回程度の実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	週一回程度デジタルツールを活用し、児童の意欲を高めながら語彙を増やす取り組みを行うことができた。 「本町小国語スタンダード」については、今年度の様々な実践から本校の国語科の標準的な授業展開の仕方等の内容をまとめることができた。 ICTの活用等による児童一人ひとりの学習履歴の把握については、十分に活用しきれていない現状がある。基礎的な内容の定着については、自分で課題を決めながら主体的に取り組む姿が見られた。
思考・判断・表現	A	国語の説明文を中心に授業研究会を行い、手立ての精選や児童の実態把握を行った。また、思考ツールについては、単元や児童の実態に合ったツールの効果的な組み合わせを考え、さらに活用しやすく整えることができた。 NIEについては、月一回程度、朝学習の時間に新聞を活用した実践を行った。思考ツールやNIEの手法を活用することで、説明文や資料から必要なことを読み取る力が育ってきている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全体的にどの問題においても高い正答率を保っており、特に国語の「漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題」についての正答率や、算数の「数量関係を捉え式に表す問題」の正答率などが高い結果であった。どちらもICT活用や学校課題研究としての取り組みなど、日々の積み重ねの成果が表れていると考えられる。一方で、言語文化に関する問題で無回答率が10%程度となった。引き続き最後まで問題に向き合い、粘り強く取り組む態度を育てていく必要がある。
思考・判断・表現	全体的に正答率が高く、特に国語の「目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することができるか」という問題や、算数の「道のりと時間の関係」についての問題では正答率が高い結果となった。学校課題研究を中心に様々な取り組みを行っている成果であると考えられる。一方で、国語の「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるか」を問う問題では、正答率が8割未満に留まった。学校課題研究の研究主題である読解力向上に引き続き取り組んでいく必要がある。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「漢字の正しい使い方」「主語と述語の関係」「修飾語と被修飾語の関係」について、課題が見られる学年もあったが、「指示語の役割」「敬語の使い方」については平均正答率が高い学年もあった。算数では、「数と計算」の領域について課題が見られる学年があったが、平均正答率が高い学年もあり学年によって差が見られた。
思考・判断・表現	国語では、「書くこと」の内容について課題が見られる学年があったが、平均正答率が高い学年もあり、学年ごとに差がある結果となった。「読むこと」の内容については、昨年度の結果と比較すると平均正答率が高くなっている学年が多く、向上が見られた。算数の「図形」「データの活用」の内容については、平均正答率が高い学年も見られ昨年度よりも向上した。国語の「読むこと」や算数の「データの活用」については、今年度の研究である国語科における読解力の向上と令和4年度までに研究した算数科における読解力の向上の研究成果と捉えることができる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	週一回程度デジタルツールを活用し、児童の意欲を高めながら語彙を増やす取り組みを行うことができた。 「本町小国語スタンダード」については、研修で積み重ねたことが少しずつ成果になってきており、その中で取り組めるものについては授業で実践している。今後、その内容をまとめ、スタンダードとしている。 ICTの活用等による児童一人ひとりの学習履歴の把握については、継続して使用することも大切であり、根気よく実施していく。	変更なし
思考・判断・表現	B	思考ツールやNIEの手法を活用することで、説明文や資料から必要なことを読み取る力が少しずつ育ってきている。また、思考ツールについては、単元や児童の実態に合ったツールの効果的な組み合わせを考え、さらに活用しやすくしていく。 NIEについては、月一回程度、各学年での実施を継続するとともに、児童が主体的に取り組める手立てを講じながら、さらに実践を進めていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)